

52 チュウジシギ

(チドリ目)

兵庫県ランク: B

Gallinago megala

繁殖個体群:無 越冬個体群:無 通過個体群:B

環境省ランク:

種の概要

カザフスタン北東部、シベリア中南部、モンゴル中北部、アムール地方などで繁殖し、繁殖後はアジア南部、中国南東部、スダダ列島、オーストラリアなどに渡り、越冬する。日本では、春秋の渡りの時期に本州以南に渡来する。池沼や水田、湿地、草地、河川に生息する。ミズ類や甲殻類、軟体動物、昆虫類などを採食する。



写真提供：松重和太

(性別：不明)

国内分布

北海道、本州、佐渡、舩倉島、隠岐、見島、四国、九州、対馬、伊豆諸島、小笠原群島、トカラ列島、奄美大島、琉球諸島、大東諸島

県内分布 ★…2013年以降生息が確認されている市町

★神戸市、姫路市、★明石市、洲本市、伊丹市、★豊岡市、加古川市、赤穂市、三木市、高砂市、丹波篠山市、丹波市、南あわじ市、加東市、★稲美町

主要な選定理由

影響の人為性					生態の脆弱性 (特殊性)			学術上の 希少性	
個体数 激減	分布域 激減	餌の 可用性 の低下	特殊 競争 圧	特殊 捕食 圧	特殊 繁殖 環境	特殊 採餌 環境	ね特殊 ぐら休 息環 境・	局 地的 繁 殖	希 少
○	○	○				○	○		

県内における生息状況およびその他特記事項

ランク変更なし。

県内では主に3-5月と8-10月に生息する。かつては県中・南部で20羽前後の群れが普通に見られ、1967年4月に加古川市尾上ではオオジシギ5羽が混じる41羽が記録されている。近年は数羽から10羽程の小群となり、記録される地域も限られている。最近では観察記録がない。

保護上の留意点

湿田や水を張った休耕田などの保全に加え、河口や河川敷、池沼などでの沼沢地的環境の再生が必要。渡りのコースとの関係もあるため、現在渡来が確認されている場所の保全は特に重要。